

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

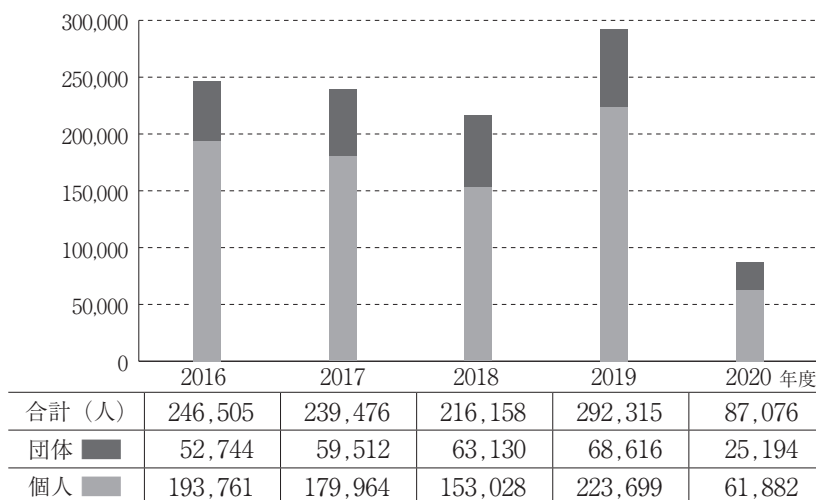
3. 展示

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009837

3 展示

入館者数

- 2020年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 103,333人
- 入館者数（5年間。共催展、巡回展除く）



本館展示

●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー	(五十音順)
オセアニア展示	ピーター・マシウス	小野林太郎、菊澤律子、丹羽典生、林 勲男	
アメリカ展示	伊藤敦規	岸上伸啓*、齋藤 晃、齋藤玲子、鈴木七美、鈴木 紀、關 雄二、八木百合子	
ヨーロッパ展示	新免光比呂	宇田川妙子、森 明子	
アフリカ展示	三島禎子	飯田 卓、池谷和信、川瀬 慈、鈴木英明、吉田憲司	
西アジア展示	菅瀬晶子	相島葉月、上羽陽子、西尾哲夫、山中由里子	
音楽展示	福岡正太	岡田恵美、川瀬 慈、笹原亮二	
言語展示	吉岡 乾	西尾哲夫、菊澤律子、相良啓子	
南アジア展示	上羽陽子	岡田恵美、松尾瑞穂、三尾 稔、南 真木人、吉岡 乾	
東南アジア展示	信田敏宏	小野林太郎、樫永真佐夫、平井京之介、福岡正太	
中央・北アジア展示	藤本透子	池谷和信、島村一平、寺村裕史	
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	太田心平	諸 昭喜、三島禎子	
東アジア展示（中国地域の文化）	河合洋尚	卯田宗平、韓 敏、末森 薫、奈良雅史、野林厚志	
東アジア展示（アイヌの文化）	齋藤玲子	岸上伸啓*、吉田憲司	
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信、卯田宗平、笹原亮二、菅瀬晶子、出口正之、寺村裕史、野林厚志、廣瀬浩二郎、南 真木人	
情報・インフォメーション	野林厚志	寺村裕史、廣瀬浩二郎、福岡正太、丸川雄三	
イントロダクション展示		※2020年度は、展示情報高度化事業実施部会が担当する。	

*は、併任教授を示す

●特別展・企画展ワーキング

開催を予定する各特別展・企画展の実行委員会、本館展示プロジェクトリーダー（1～2名）

●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

• アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司

内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

• 西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

• 音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

• 言語展示

一般公開 2010年3月25日～

言語展示チームリーダー 庄司博史

言語展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

内容

音声や身ぶりを媒体とすることばは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性などを生み出すことばは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

• オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー ピーター・マシウス

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 須藤健一 丹羽典生
林 勲男

内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

• アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 鈴木 紀

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤玲子 鈴木七美 齋藤 晃 關 雄二
八杉佳穂

内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

• ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

• 情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんなの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんなの研究って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

• 東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示(日本の文化) チームリーダー 日高真吾

東アジア展示(日本の文化) チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子
野林厚志 出口正之

内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれている。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」、「日々の暮らし」、「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニ

ホン」 という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

• 東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームリーダー 朝倉敏夫
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームメンバー (館内) 太田心平

内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

• 東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(中国地域の文化) チームリーダー 塚田誠之
東アジア展示(中国地域の文化) チームメンバー (館内) 韓 敏 小長谷有紀* 田村克己 野林厚志
横山廣子

内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらしている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

• 南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
南アジア展示チームリーダー 三尾 稔
南アジア展示チームメンバー (館内) 上羽陽子、杉本良男、寺田吉孝、松尾瑞穂、南 真木人、吉岡 乾、
竹村嘉晃*、豊山亜希*

内容

南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。この展示では、宗教文化や生業・工芸の多様性、都市を中心とした活気あふれる大衆文化、またグローバル化のなかで花ひらく染織文化のすがたを紹介する。

• 東南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
東南アジア展示チームリーダー 信田敏宏
東南アジア展示チームメンバー (館内) 榎永真佐夫、佐藤浩司、平井京之介、福岡正太、吉田ゆか子*

内容

森と海に囲まれた東南アジア。熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内で昼寝などをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼しくなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。本展示場では、「東南アジアの1日」をテーマに、その多彩な民族文化を紹介する。

• 中央・北アジア展示

一般公開 2016年6月16日～
中央・北アジア展示チームリーダー 藤本透子

中央・北アジア展示チームメンバー (館内) 池谷和信、佐々木史郎、寺村裕史、小長谷有紀*

内容

中央・北アジアは、ユーラシア大陸の北東部を占める広大な地域である。古くから東西南北をむすぶ交渉路としての役割を担い、多様な民族が行き交っていた。20世紀に社会主義を経験した後、市場経済に移行し、グローバル化の波にさらされながら伝統を再評価する動きがみられる。「自然との共生」「社会主義の時代」というふたつの共通テーマをふまえて、「中央アジア」「モンゴル」「シベリア・極北」の3つの地域に生きる人びとの今を紹介する。

●アイヌの文化展示

一般公開 2016年6月16日～

アイヌの文化展示チームリーダー 齋藤玲子

アイヌの文化展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規、岸上伸啓、佐々木史郎、吉田憲司、北原次郎太*

内容

アイヌは、北海道を中心に日本列島北部とその周辺に暮らし、寒冷な自然環境のもとで独自の文化をはぐくんできた先住民族である。江戸時代に幕府による支配が始まり、明治時代に同化がすすめられると、アイヌは差別を受け生活に困るようになった。しかし近年、日本政府はその歴史的事実を認め、アイヌ民族を尊重した政策に取り組みはじめた。ここでは、伝統を継承しつつ、あらたな文化を創造する人びとの姿を紹介する。

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す

特別展示・企画展示など

●特別展示

「先住民の宝」

会 期 2020年10月1日(木)～12月15日(火)

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

実行委員長 信田敏宏

実行委員 (館内) 池谷和信、岸上伸啓、齋藤玲子、鈴木 紀、野林厚志、南 真木人、川瀬 慈
(館外) 阿部健一(総合地球環境学研究所)、北原次郎太 モコットウナシ(北海道大学)、
久保正敏(国立民族学博物館 名誉教授)、庄司博史(国立民族学博物館 名誉教授)、
立川陽仁(三重大学)、田村将人(国立アイヌ民族博物館設立準備室)、
本谷裕子(慶應義塾大学)

協 力 UMAK ノルウェー・アークティック大学博物館・芸術学院、公益財団法人アイヌ民族文化財団、
国立アイヌ民族博物館、株式会社札幌丸井三越、集英社「週刊ヤングジャンプ」、
一般財団法人千里文化財団、総合地球環境学研究所、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ)

内容

世界には、現在、約3億7,000万人の先住民が暮らしており、その民族の数は少なくとも5,000と言われている。本特別展という宝とは、圧政や差別に苦しみながらも、日々を力強く、そして希望を失わず生きてきた彼らにとっての心の拠り所であり、民族としての誇りでもある。先住民の思いをのせた約740点におよぶ展示品とともに、先住民の世界を紹介する展示となった。

●企画展示

梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」

会 期 2020年9月3日(木)～12月1日(火)

会 場 本館企画展示場

主 催 国立民族学博物館

協 力 一般財団法人千里文化財団

学術協力 国立情報学研究所 高野研究室

実行委員長 飯田 卓

実行委員 (館内) 丸川 雄三
(館外) 小長谷有紀 (日本学術振興会)、久保正敏 (国立民族学博物館 名誉教授)、
高野明彦 (国立情報学研究所)

内容

みんなく初代館長を務めた梅棹忠夫(1920-2010)は、多数の学術調査に参加した知の先覚者である。彼は、調査成果を論文などにまとめる方法を『知的生産の技術』(1969年)で述べたが、具体的に資料を加工する過程は示さなかった。この企画展では、梅棹のアーカイブズ資料とデジタル・データベースで彼の方法の舞台裏を紹介した。

●共催展示

「佐々木高明の見た焼畑——五木村から世界へ」

会期 2020年10月3日(土)～12月13日(日)
会場 五木村歴史文化交流館 (ヒストリアテラス五木谷)
担当者 池谷和信

内容

熊本県五木村の郷土博物館において、本館との共催によって佐々木高明氏の撮影した五木村での焼き畑の写真を中心にして当時の村の暮らしを紹介した。同時に、五木村の事例から日本(九州)やアジア(台湾・東南アジアなど)の食と農の未来のあり方を考えた。

「梅棹忠夫生誕100年記念 知的生産のフロンティア」

会期 2021年1月13日(水)～3月14日(日)
会場 京都大学総合博物館
担当者 飯田 卓

内容

本館で2020年秋に開催した梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」との連動企画である。

梅棹の学生時代の受講ノート、スケッチ、フィールドノートや、学術調査の際に収集した資料、また、京都大学と関係する資料を新たに加えた展示を開催した。

●巡回展示

「驚異と怪異——モンスターたちは告げる」

会期 2020年6月23日(火)～8月16日(日)
会場 兵庫県立歴史博物館
担当者 山中由里子

内容

本展では、国立民族学博物館所蔵の民族資料を中心に、人形、竜、怪鳥、一角獣など、さまざまな世界の想像上の生き物について紹介するとともに、警告・凶兆(モンスターム)を語源とする怪物(モンスター)の文化的意味について考えた。

展示関連出版物およびプログラム

●特別展示

「先住民の宝」

発行日 2020年3月19日
編者 信田敏宏
発行 国立民族学博物館

「復興を支える地域の文化——3.11から10年」

発行日 2021年3月2日
編者 日高真吾
発行 国立民族学博物館

●ビデオテーク

「ウズベキスタンの美味しい羊料理——プロフ・シオルバ」(番組番号1759)

制作監修：寺村裕史

家畜市で羊を買い、ウズベキスタンの代表的な料理である羊肉を使ったプロフやシオルバを調理する様子を紹介する。

「タンディルでパンを焼く」(番組番号1760)

制作監修：寺村裕史

ウズベキスタン・サマルカンド市郊外の村において、タンディルという伝統的な窯でパンを焼く様子を紹介する。

「ウズベキスタンの結婚式」(番組番号1761)

制作監修：寺村裕史

ウズベキスタン・サマルカンド市郊外の村で行われた結婚式における儀礼や披露宴の様子を紹介する。

「みんなく村に神楽がやって来る！——伊勢大神楽ワークショップの記録」(番組番号1762)

制作監修：山中由里子、神野知恵

伊勢大神楽は旅する芸能者の人々です。この映像では、彼らがみんなくで行った厄払いの獅子舞の様子を紹介する。

●研究用映像資料

該当なし

●マルチメディア番組

「徳之島の歌と踊りと祭り」(番組番号6059)

制作監修：笹原亮二、福岡正太

徳之島の各集落に伝わる歌と踊りと祭りの様相やほかの奄美の島々との異同等を、ビデオや解説や歌詞などによって紹介する。

「東南アジアの人形芝居」(番組番号6060)

制作監修：福岡正太

影絵、木偶人形、糸あやつり、水の上を動く人形など、東南アジアでは、さまざまな人形芝居が多くの人に楽しまれている。

●「みんなく電子ガイド」プログラム数（2021年3月31日現在）

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	40	40	40	40
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	30	30	30	30
東アジア				
朝鮮半島の文化	47	47	47	47
中国地域の文化	39	39	39	39
アイヌの文化	10	10	10	10
日本の文化	35	35	35	35
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総 計	各 328			